



わたしの青少年赤十字

詩・100文字提案作品集



2025 日本赤十字社福島県支部発行

はじめに

青少年赤十字の大きな特色は、学校教育の中に組織され、教師の適切な指導のもとで実践されていることです。

青少年赤十字に加盟している学校では、子どもたちがより積極的に青少年赤十字活動を推進することによって、人間尊重の精神を育み、自らが豊かな人間性の醸成を図ってほしいと願っています。

そこで、福島県支部では、子どもたちが実践していること、思っていることを「〇〇文字程度に表現した「詩・一〇〇文字提案作品」を募集いたしました。

多数の優秀な作品の中から「日本赤十字社福島県支部長賞」「青少年赤十字福島県指導者協議会長賞」「福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞」を特別賞として選び、以下、「優秀賞」「佳作」「入選」を選定させていただきました。また、受賞した作品が多数の学校には「学校賞」を、五年連続で応募された学校には「学校奨励賞」を授与させていただきました。

- 「わたしの一〇〇文字提案
- 「わたしがだれかのためにできること」
- 「世界の見知らぬ友へ」【小・中学生】
- 「世界の問題についての私の提案」【高校生】
- 「夢をかなえるために」

募集作品

□詩（いのちの詩・愛の詩）

人間のいのちはかけがえのないもの。

そのいのちを守るために、自分や周りの人、生きものを大切にしなくてはなりません。そんなみなさんの素直な願いや感動を、そして未来に向かっての夢・希望をぜひ詩に託して表現してほしいと願い、作品を募集しました。

□わたしの一〇〇文字提案

「気づき、考え、実行したこと、しようとしたこと」を次のテーマから選んで、自分の考えを端的に表現した作品を募集しました。

「わたしがだれかのためにできること」

今年度もこれらの受賞作品をまとめ、本冊子を刊行することができましたことに深く感謝いたします。「人道」の精神のもと、子どもたちが未来に大きな夢をもち、その実現に向けて努力する生き生きとした姿を感じ取っていただければ幸いです。

はじめに・募集作品

目次

特別賞及び学校賞・学校奨励賞	16	14	12	5	4	5	4
特別賞受賞者・学校賞・							
学校奨励賞受賞校							
日本赤十字社福島県支部長賞							
青少年赤十字福島県							
指導者協議会長賞							
福島県青少年赤十字							
賛助奉仕団委員長賞							
佳 作							

100文字提案

「わたしがだれかのために できること」

受賞者	28	25	22
優秀賞	46	44	42
佳 作			

100文字提案

「世界の見知らぬ友へ」

【小・中学生】

受賞者	36	35	34
優秀賞			
佳 作			

詩「いのちの詩・愛の詩」

100文字提案

「世界の問題についての私の提案」

【高校生】

受賞者	40	39	38
優秀賞			
佳 作			

100文字提案

「夢をかなえるために」

受賞者	49	46	44	42
優秀賞				
佳 作				

年度別応募状況・令和七年度

テーマ別応募作品数

50

作品募集実施要項

51

作品募集のお知らせ

53

作品審査を終えて

54

審査にご協力いただいた皆様

57

〔表紙〕

日本赤十字社東京都支部

石田 遊星

特別賞受賞作品



日本赤十字社福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

福島大学附属小学校

六年

阿部紗也子

「わたしがだれかのためにできること」

玉川村立玉川第一小学校

三年 大和田尚央

青少年赤十字福島県指導者
協議会長賞

「いのちの詩・愛の詩」

郡山市立富田東小学校

相馬市立中村第一小学校

三年 伊藤 晴一

福島大学附属小学校
郡山市立富田東小学校
相馬市立中村第一小学校
白河市立東北中学校
福島県立白河実業高等学校

福島県青少年赤十字賛助
奉仕団委員長賞

「夢をかなえるために」

須賀川市立白江小学校

六年 石井 悠翔

学校奨励賞

福島市立福島第三小学校
須賀川市立小塩江小学校
白河市立表郷小学校
白河市立東北中学校
福島県立白河実業高等学校
福島県立平支援学校 高等部

学校賞

猪苗代町立猪苗代第一小学校
五年 吉田 凱星

「夢をかなえるために」

白河市立東北中学校

二年 佐藤 佳那

日本赤十字社 福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

福島大学附属小学校 六年

阿部紗也子

家族みんなと似ている私

背が高いのはおじいちゃん

爪の形はおばあちゃん

足と耳の形はお父さん

雰囲気はお母さん

とっさにでる動きはお兄ちゃん

ああ家族つてふしぎだな

ご先祖様とも一こうやつてつながっているんだな

今日も感謝してお盆の準備

「わたしがだれかのためにできること」

玉川村立玉川第一小学校 三年 大和田尚央

弟はけんかの時、ひどい言葉を使う。ぼくそつくりだとお母さんに
言われてハツとした。たしかに弟はぼくのまねをよくする。いい事も、
悪い事も。だからこれからは、相手の心がいたむよつな言葉は使わない。
思いやりの手本、まずはぼくが見せなくちゃ。

「世界の見知らぬ友へ」

猪苗代町立猪苗代第一小学校 五年 吉田 凱星

テレビに映る、ガリガリにやせて顔に虫の付いた男の子。空ふく
なんだろう。そこは清潔ではないのだろう。

ぼくは今すぐ助けには行けない。いつか行けるその日まで、一生
けん命勉強するよ。そして君に会つたら真っ先にこう言うね。

「もう、大丈夫だよ。」

「夢をかなえるために」

白河市立東北中学校 二年 佐藤 佳那

私は、看護師になりたいです。職場体験で病院に行きました。

看護師のみなさんは、人を『見』るのではなく、人を『看^ム』て

いました。人のやさしい変化に気付けるように、人を見ることがあります。

意識して生活しています。

青少年赤十字福島県指導者協議会長賞

「いのちの詩・愛の詩」

郡山市立富田東小学校 三年

伊藤 晴一

いのちは、大切だから

たくさん食べる

いのちは、大切だから

たくさんねる

いのちは、大切だから

たくさん走る

いのちは、大切だから

たくさんやさしくする

自分のいのちとみんなのいのちをえがおでまもる

福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞

「夢をかなえるために」

須賀川市立白江小学校 六年 石井 悠翔

僕の夢は、米、野菜の農家になることだ。そのためにぼくは、時間があれば祖父を手伝い、やり方を教わっている。最近米不足といった大きな問題が起きている。そんな日本を救うために、米農家をつぎたい。

詩
「いのちの詩・愛の詩」



「いのちの詩・
愛の詩」「
受賞者

優秀賞

佳作

白河市立東北中学校

二年 石川
三年 鈴木
めい

福島市立福島第三小学校

三年 山澤 柏奈

矢祭町立矢祭中学校

一年 蛭田 晴斗

郡山市立富田東小学校

二年 田中りりあ

福島県立白河実業高等学校

一年 鈴木 健人

四年 佐藤 奏那

四年 須藤 咲弥

四年 吉川 燐真

五年 大森 晴心

四年 大森 晴心

郡山市立多田野小学校

六年 大橋莉衣菜

相馬市立中村第二小学校

六年 佐藤 凜望
六年 早川 心陽

矢祭町立矢祭中学校

一年 酒井 千波

「いのちの詩・愛の詩」受賞者

入選

相馬市立中村第二小学校

五年 阿部 じゅる

五年 阿部 陽菜美

五年 佐藤 梓羽

五年 高橋 理子

六年 佐々森蒼我

六年 鈴木 龍輝

五年 高橋 理子

五年 佐藤 梓羽

五年 高橋 理子

五年 佐藤 梓羽

郡山市立富田東小学校

六年 褒塙 富翔

三年 安齋 佳乃

三年 鈴木 柚花

三年 野口 悠愛

四年 黒崎 碧人

四年 花岡 蜜羽

五年 大矢妃茉莉

平田村立蓬田小学校

四年 國分愛梨咲

白河市立東北中学校

二年 吉成 七海

三年 鈴木 逢紀

四年 塩田 珠愛

四年 植田 結菜

五年 鈴木 逢紀

五年 佐藤 梓羽



『いのちの詩・愛の詩』優秀賞

福島市立福島第三小学校 三年 山澤 柑奈

大すきなひいおばあちゃんが百才でなくなつた。

ひいおばあちゃんは一人ぐらしでおりよう理上手。

ボテトサラダ、天ぷら、春まきがおいしかつたよ。

木のパズルや絵しりとりで大わらいして遊んだね。

おわかれはとつぜんで、さみしくてさみしくてたくさんなった。

もう会えないけれど、わたしの心の中にずっといる。

百才まで元気に生きてくれてありがとう。

いつもほめてくれた習字やうん動をこれからもがんばるよ。



矢祭町立矢祭中学校 一年 蝶田 晴斗

福島県立白河実業高等学校 一年 鈴木 健人

人は愛のあたたかさで生きる

命は平等

「ありがとう」

生きることに優劣はない

「すごいね」

誰かの命が

「ごめんね」

誰かの命より軽いことなど決してない

心があたたまる

命は尊い

その一言が心をあたたかくする

それは痛みを知り 喜びを知り

そしてそのあたたかさに救われ

つながることを知っているから

今度は自分の番

声なき命にも耳を澄ませば

それが私にできること

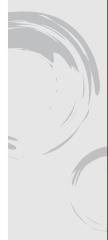
同じ祈りが聞こえてくる

きっとあなたにもできること――

「生きたい」と

『いのちの詩・愛の詩』佳作

福島大学附属小学校 六年 金澤 咲那



私は耳をすませた
すると、いのちの音が聞こえてきた
さわさわ、びゅー、こつこつ、ふうー
小さな音符が集まつてできる曲
小さな音符が集まつてできる曲
私の心に響くメロディー
命があるから音を出し、音が聞こえる
私の命も音を出す
頑張つて生きている証拠の
「命の音」を、これからも

福島大学附属小学校 六年 菅家 薫

今年は戦後八十年
私は生まれていない
父母も祖父母も生まれていない
修学旅行で戦争の悲惨さを知った
かけがえのないたくさんの命が失われたことを知った
私は学ぶ
悲劇を繰り返さないために
私は見たい
戦争のない戦後九十年、百年の未来を



「いのちの詩・愛の詩」佳作

福島大学附属小学校 六年 長谷場咲希

郡山市立富田東小学校 四年 佐藤 奏那

九十五歳のおおばあば、優しくて物知り
戦争の時代も知っている

毎日食べられること、毎日笑えること

毎日明日が来ること

私にとつて当たり前のことが

当たり前じゃないことを知っている

いろんなことを知っているけど、いばらない

今の私がここにいるのは、おおばあばのおかげ

私とつながっている

たくさんの人たちのおかげ

郡山市立富田東小学校 二年 田中りりあ

ちきゅうがあつてよかつた。
ともだちがいてよかつた。

かぞくがいてよかつた。
わたしがいてよかつた。

ちきゅうがなかつたら

ともだちがいなかつたら

かぞくがいなかつたら

一人ぼっちだつた。

ほんとうにいてよかつた。

わたしはみんなのことが大すき。

「ありがとう。」

感謝をしながらいただきます。

ぼくの大きいばあちゃんが旅立つた。

九十ハオという長い時間も生きててくれた。

何かをしている時、線こうのにおいがする。

大きいばあちゃんが会いにきたと思う。

さびしいのかな。

心配なのかな。

だいじょうぶだよ。

ぼくの心の中で生きているから。

郡山市立富田東小学校 四年 須藤 咲弥

地面を見ると、小さな小さなアリがいた。
自分の体の三倍ほどのせんべいのかけらを
せつせと運んでいた。

大切そうに、仲間のところへ

ぼくが昨日食べたはんぺんも、

ぼくが今日食べたかつ丼も、

生きていた魚や豚の命をいただいて

ぼくを元気にしてくれた。

「ありがとう。」

感謝をしながらいただきます。

郡山市立富田東小学校 四年 吉川 燐真

郡山市立多田野小学校 六年 大橋莉衣菜

いのちってね、ぽかぽかしてる。
おひさまみたいにあつたかい。

ぎゅってだいたら、トクトクしてる。
それはこころのメロディー。

いのちってね、ふわふわしてる。
おかあさんのてのひらみたい。

いたいときにはなでてくれて、
うれしいときにはいつしょにわらう。

いのちってね、おはなしするよ。
「たいせつにしてね」 つてささやくの。

やさしいきもちわすれないでね。
それがいのちのねがいごと。

お母さんが言っていた
赤ちゃんを産むのはいたくて大変
大変な思いをして産んでくれた命
一生大事にしたい
つなげていきたい
つらいこといやなことがあっても
大事にしたい
人生の最後まで
一生けん命生きていく

相馬市立中村第二小学校 六年 佐藤 凜望

郡山市立富田東小学校 五年 大森 晴心

私は一人っ子
だから遊ぶのも一人、勉強も一人
夏休みの留守番も一人
さみしいと思う時があるけど
遊びにさそってくれたり

「何してる?」 とメッセージをくれる友達がいる
「ただいま。」と帰ってくる両親がいる
だからさみしいなんて気のせいだ
私はやさしい友達、温かい両親の愛がある
一人っ子だけど私は一人じゃない
病院ではさくにつかまつて
がんばって立つ練習をしていたんだって

「いのちの詩・愛の詩」佳作

相馬市立中村第一小学校 六年 早川 心陽

白河市立東北中学校 二年 石川 琴菜

我が家にやつてきた小さな命
ずっとずっと待つてたよ

お母さんのお腹の中ですくすく育った小さな命

お母さんが大切に守つてきたこの小さな命

ひいおじいちゃんやひいおばあちゃん

そのまた昔からつながれてきたこの小さな命

大切に大切につないでいこうね

これからもすくすくのびのび大きくなつてね

朝起きるとお母さんに
「おはよう」と言つて

温かいご飯を当たり前に食べる

七時には祖父がきて

姉たちを駅に送つていく

昨日クシャクシャだつた制服は

アイロンがかけられている

私にとつての当たり前は

ふり返つてみると

とても幸せな事だった。

矢祭町立矢祭中学校 一年 酒井 千波

白河市立東北中学校 三年 鈴木 めい

弟は生まれる前から病気だと分かつた
生まれると大人しか入れないとこにに入った
大人しか入れない 弟がみたい

写真で見た 管にたくさんつながれていた

そして手術をした 何回も
でも 生きるためにすること やること

そしてやつと退院

初めてまぢかで見た顔

かわいかつた うれしかつた
大切にしたいと思つた

あなたを初めて見たとき
そのつぶらな瞳に吸い込まれた
あなたに初めてふれたとき
小さな生命の鼓動を感じた
あなたと初めて走ったとき
一生懸命な足音が聞こえた
あなたを初めて抱きしめたとき
ほっぺをなめられてびっくりしたよ
私はこれからも

この初めてを一緒に探したい



一〇〇文字提案

「わたしがだれかのためにできること」



**「わたしが
だれかのために
できること」
受賞者**

優秀賞

佳作

猪苗代町立猪苗代第一小学校
二年 渡部 久美

福島市立福島第一小学校
六年 紺野 寧奈

福島大学附属小学校
六年 佐藤 淩里

相馬市立中村第二小学校
五年 佐藤 拓

福島大学附属小学校
六年 松崎 雪乃

六年 高橋 芽愛

相馬市立日立木小学校
六年 坂本 結佳

須賀川市立第三小学校
六年 渡邊 えみ

六年 臨内 奏

一年 坂本 結佳

須賀川市立第三小学校
二年 猪又 虹歩

四年 佐藤 るき

六年 星野 蓮

須賀川市立第三小学校
六年 永林 美紅

四年 佐藤 るき

六年 星野 蓮

須賀川市立第三小学校
三年 本宮康太郎

二年 遠藤 紗那

二年 伊勢 旺介

白河市立東北中学校
五年 矢吹 莉愛

二年 古川 慶栄

三年 兼子 心優

古殿町立古殿小学校
五年 木下 滉也

二年 班目 彩心

三年 宮崎 羽生

白河市立表郷小学校
六年 角田 悠翔

三年 猪野塚結愛

三年 猪野塚結愛

会津若松市立日新小学校
六年 木下 滉也

学校法人松韻学園福島高等学校
一年 安部 隼人

「わたしがだれかのためにできること」受賞者

福島県立白河実業高等学校

一年 芳賀 七海

入選

白河市立白河第四小学校

三年 石井 奏太

五年 愛澤 怜
五年 今野 有詩

五年 佐藤 啓祐
五年 立谷 瑞偉

桑折町立半田醸芳小学校

五年 野村 優衣
五年 山田 有紗

五年 深谷 壮真
五年 藤田 悠真

六年 大和田基生
六年 西谷ふたば

郡山市立畠田東小学校

二年 本田 岳
五年 二瓶 快心

白河市立表郷小学校
六年 佐々木美晴

六年 星 愛玲

六年 市田 琉那
六年 渡辺 琉心

会津若松市立城西小学校
六年 緑川 鈴芭

一年 吾妻 晟朱

須賀川市立西袋第二小学校

六年 上原 大輝

相馬市立表郷小学校
六年 渡辺 琉心

南相馬市立上真野小学校
二年 横山 良紗

須賀川市立第三小学校

二年 佐久間虎太郎

会津若松市立行仁小学校
四年 須藤優理亜

白河市立東北中学校
二年 三村咲結希

須賀川市立白江小学校

六年 須田 理瑚
六年 赤城 琉生

四年 星野 霽
四年 赤城 琉生

三年 福島 颯介
三年 藤成 優杏

古殿町立古殿小学校

五年 岡部 彩綾
六年 小泉 勇斗

会津若松市立日新小学校
六年 板橋 ふき

二年 広野 亮

南会津町立荒海中学校

五年 佐藤日向子
六年 吉田穂里子

猪苗代町立猪苗代第二小学校
六年 板橋 ふき

三年 馬場 にこ

三年 平野 龍翔

「わたしがだれかのためにできること」受賞者

学校法人福島成蹊学園

福島成蹊高等学校

一年 大槻 羽菜

学校法人松韻学園福島高等学校

二年 大槻 真琴

三年 紺野 澄那

福島県立平支援学校 高等部

一年 山野邊凌太



『わたしがだれかのためにできること』 優秀賞

福島市立福島第一小学校 六年 紺野 寧奈

福島大学附属小学校 六年 土屋 咲和

私はよく行く公園がある。ある日、そ

今日も朝のボランティア清掃に行く。

の公園のベンチがよごれていた。私はよ
これをふいた。この行動によつて、だれ

バケツに水をくみ、雑きんをしぼり、み

かが笑顔になるかもしれない。知らない

んなにあいさつし、ろう下を掃除する。

だれかだけど、笑つていると思うと私も
うれしくなる。

今日もみんなが気持ち良く元気に過ごせ
るために。これが私のだれかのためにで
きることだ。

すべり台が、ものすごくあつくなつて
いる日があった。先生のまねをして、か
いだんの下にカラーコーンをおいたよ。

緑が輝く山々、青い空と白い雲。真野
川には鮭が上る。自然が豊かな私の住む
上真野。

「みんながやけどをしなくてよかつた
ね。」

と、ほめられた。役に立ててうれしかつ
た。

もつともつときれいにするためにでき
ることの一つは、ゴミを拾うこと、ゴミ
を捨てないこと。小さなことだけど実行
していきたい。

僕がだれかのためにできること、それは人に優しくすること。人に優しくすると、その人も誰かに優しくするだろう。そうやって優しさの輪が広まれば、世界だつて救えるはず。そしたら、優しさは倍になつて返つてくる。



『わたしのがだれかのためにできること』佳作

福島大学附属小学校 六年 佐藤 澪里

温暖化を止めたい。私たちは未来を変えられる。冷房を控え、電気をこまめに消す。給食を残さず食べる。小さな一步でも、みんなで踏み出せば大きな力になる。私たちの手で、少しでも地球の未来を守ろう。

福島大学附属小学校 六年 松崎 雪乃

七月なのに、福島市は最高気温が三十九度を超えた。小ぶりな桃や曲がったきゅうりに、地球温暖化を身をもって感じている。3Rの実行や、電気をこまめに消すなど、地球のためには、私は私にできることをしたい。

福島大学附属小学校 六年 菅野 一葉

私はヘアドネーションをしている。病気で髪がなくなってしまった人をニュースで見た。それをきっかけに、一度も伸ばしたことのなかつた髪を伸ばし始めた。名前も顔も知らない人へ、勇気と希望を届けたい。

郡山市立高倉小学校 六年 渡邊 えみ

私は地域の人と関わる伝統芸能の人形淨瑠璃を習っています。淨瑠璃をやっている人の中で学生は少ないです。なので友達をこそい、淨瑠璃の良さを伝えて、身近にある淨瑠璃を百年、二百年先まで繋いでいきたいです。

「わたしがだれかのためにできること」佳作

郡山市立富田東小学校 四年 佐藤 るき

須賀川市立第三小学校 二年 班目 彩心

学校に行く時「おはよう」と元気に挨拶された。ぼくは返す事が出来なかつたけれどその挨拶で今日も頑張ろうと思えた。いつも恥ずかしくて小さい声になつてしまつが明日からは大きな声で魔法の言葉を伝えたいと思う。

ろうかになんかふしぎなしみができていた。

「はなのみち」のように、きゅう食いつまでつづいていたよ。きゅう食のワゴンが通つたところなんだつて。友だちと、きれいにすることにしたよ。とても気もちがよかつたよ。

須賀川市立第三小学校 一年 遠藤 紗那

古殿町立古殿小学校 五年 矢吹 莉愛

きゅう食の時、はいぜん台の上の空になつた食かんをろうかのワゴンへはこぶ人がいた。りょう手がふさがつていたので、私は先まわりして教しつのとびらを開けてあげた。

私は特設部が終わつた後、みんなの机をそろえている。みんなのためにやつているのではない。ほめられるのは好きだけど私の生活なだけだから。

今日も机がぐちゃぐちゃ。よし、がんばつてそろえよう。

「ありがとう。」
が、うれしかつたよ。

須賀川市立第三小学校 一年 古川 慶栄

白河市立表郷小学校 六年 角田 悠翔

一年生にアサガオのたねをプレゼントした。メッセージもつけたよ。
うすいピンクの花やムラサキのきれいな花がたくさんぐくといいなと思った。たねといっしょに、うれしい気もちもおすそわけ。よろこんでくれたよ。

教室が少しよごれていた。それに気づきぼくは一人でそうじをした。トイレに入った時は、スリッパをきれいに並べた。きれいになるととても気分がよかつた。これからも自分にできることをしていきたいと思う。

会津若松市立日新小学校 六年 木下 涼也

湖に行くと、ガラスの破へんが落ちて いました。ライターも
プルタブも誰かがふむと危ないので拾いました。
ぼくがだれかのためにできることは、ごみを拾うこと。自分
のごみは持ち帰り分別して捨てることです。

相馬市立中村第二小学校 六年 高橋 芽愛

学校でいいさつを欠かさず続ける小さな行動は、友達や先生
の笑顔や安心を生みます。こうした思いやりの積み重ねが、や
がて希望に満ちた未来を築く大切な一步だと私は信じていま
す。

猪苗代町立猪苗代第一小学校 一年 渡部 久美

ともだちがないでいたら、だいじょうぶって言つてあげる。
いじわるされたら「ダメだよ」ってとめてあげる。あそびあい
てがほしいなら、いっしょにあそんであげる。えがおになつて
ほしいから、みんなに声をかけます。

相馬市立日立木小学校 一年 坂本 結佳

わたしは、まわりのひとやしゃかいのために、うみのゴミひ
ろいにさんかしました。ゴミがいっぱいだつたけど、きれいに
するとさかなやみんながけがをしなくなります。これからも、
がつこうやまちのせいそうをがんばります。

相馬市立中村第二小学校 五年 佐藤 拓

海でカモメの足に釣り糸がかしまつているのを見てかわいそ
うだと思いました。

海の生き物や、海で仕事をする人が、だれかが捨てたゴミで
困らないように、ゴミを見つけたら拾うようにしていきたいで
す。

相馬市立日立木小学校 六年 壱内 葵

私が「だれかのためにできること」は、人と人のつながりを
大切にすることです。例えば、地域での花植えです。それに参
加することで、地域の人と交流ができ、助け合いができます。
それが、よい未来への、第一歩。

相馬市立日立木小学校 六年 星野 蓮

南会津町立南会津中学校 三年 宮崎 羽生

僕の地区では、ボランティアで月一回に国道の花の入替えや草むしりをやっています。作業はとても大変だけど、終わつた後はとても幸せな気持ちになります。これからも参加して、きれいな町にしたいと思います。

私は、生まれてから一度も切つていかない髪を寄付しました。私が一番大切にしていたものです。だからその髪が誰かを幸せにすると信じています。私の大切なものが、誰かを幸せにすることは、とても素晴らしいことだと思います。

須賀川市立第一中学校 一年 伊勢 旺介

塙町立塙中学校 三年 猪野塙結愛

僕は今の生活に不満がありません。ですが地球のどこかにいる人はご飯が食べれない人や住む場所がない人、学校にいけない人など悲しい思いをしている人がいます。私たちにできるのは、このことを忘れないことです。

困っている人がいるなら、声をかけて手伝う。悲しんでいる人がいるのなら、話を聞いて励ます。悩んでいる人がいるなら、悩みがなくなるまで話を聞く。その一つ一つ小さな行動を続けることがだれかのためになる。

白河市立東北中学校 三年 兼子 心優

学校法人松韻学園福島高等学校 一年 安部 隼人

私は小さなことを大切にしたい。落ちている消しゴムをひろつてあげる、コンビニでおつりを募金するなど、自分が行う小さなことが、小さなありがとうにつながると思ったからだ。その行動が、温かい笑顔につながる。

私が駅前の清掃活動に参加してわかつたことは、タバコの吸い殻のポイ捨てが一番多いことだ。清掃活動を通して、見過ごしていた街の汚さに気づいた。気づきを行動に移すことこそ、誰かのためになることを学んだ。

福島県立白河実業高等学校 一年 芳賀 七海

自ら行動するのに必要なものは、「小さな勇気」だと私は考
えている。少し勇気を出して行動してみる。困っている人に声
をかけてみたり、落し物を拾ったり。いざ行動してみると、
案外簡単なことかもしれない。



一〇〇文字提案

「世界の見知らぬ友へ」

【小・中学生】



「世界の
見知らぬ友へ」

【小・中学生】
受賞者

優秀賞

入選

郡山市立富田東小学校

五年　岡部　昌樹

福島市立福島第一小学校

五年　半澤　実采

郡山市立富田東小学校

四年　国分　愛桜

佳作

郡山市立富田東小学校

三年　菅野　真帆

白河市立表郷小学校

六年　戸井田彩良
六年　原　優衣乃

須賀川市立白江小学校

六年　渡邊　朝陽

会津若松市立城西小学校

五年　二瓶　陽希

相馬市立中村第二小学校

六年　佐藤　蘭
六年　橋本　夏帆

白河市立中村第二小学校

白河市立東北中学校
二年　大高　竣祐

白河市立東北中学校
一年　榎原　凜

南会津町立南会津中学校

二年　酒井　仁乃



『世界の見知らぬ友へ』【小・中学生】優秀賞

郡山市立富田東小学校 五年 団部 昌樹

君をニュースで見たよ。ガザ地区にいる君を、助けてくれる人はいるの？ 何で泣いているの？ 君のこと、知りたいよ。平和になつたら、戦争の時できなかつた事を、一緒にしよう。生きる希望、楽しみを失わないで。心は一つ。

『世界の見知らぬ友へ』【小・中学生】佳作

郡山市立富田東小学校 三年 菅野 真帆

バドミントンの国さい大会で、台灣やシンガポールの人たちとし合をした。言葉は通じなくても、ジェスチャーとえ顔ですぐに仲良くなれた。うれしかった。もっと強くなつてたくさんのお友だちを作れたらいいな。

相馬市立中村第二小学校 六年 佐藤 蘭

ニュースで見る戦争に私は悲しくなる。
女の子が泣いている。

本当ならみんな笑顔で元気に遊んでのに。
私には祈る事しか出来ないけど。

戦争が一日も早く終わり、

世界中の子供達が笑顔になれますように。

須賀川市立白江小学校 六年 渡邊 朝陽

白河市立東北中学校 二年 大高 純祐

音楽は国境を越える。四年生のときに聴いた韓国の打楽器音楽、サムルノリに心を打たれ、私はそう思った。六年生になつた今、私は地域に伝わる伝統の和太鼓を練習している。この音楽を世界のまだ知らぬ友へ届けたい。

テレビ越しでみた少年は、服はボロボロで靴がない。僕が学校にいる時も、君は空の下で仕事中。同じ地球で生まれたのに。平等なのは「時間」だけ。さて、見知らぬ友は今、何をしてるだろう。一分一秒大切にしよう。

一〇〇文字提案

「世界の問題についての私の提案」

【高校生】



「世界の問題についての私の提案」

【高校生】
私の提案

受賞者

優秀賞

入選

福島県立白河実業高等学校

一年 野口 蕉絃

学校法人福島成蹊学園
福島成蹊高等学校

一年 菅野 晶瑛

福島県立郡山北工業高等学校

二年 上石 蓮夢

福島県立白河実業高等学校

一年 大河内陽菜

佳作

三年 安齋 遼大

福島県立白河実業高等学校

一年 高橋 弘暉

福島県立白河実業高等学校

一年 小宅 結希

福島県立平支援学校 高等部

一年 山口 徹正

福島県立白河実業高等学校

二年 関根 詩音



『世界の問題についての私の提案』【高校生】優秀賞

福島県立白河実業高等学校 一年 野口 蕉絃

気候変動や貧困、紛争、教育格差などの世界的課題に対し、高校生である私たちが関心を持ち、学び、意見を発信し、小さな行動を積み重ねることで、社会を動かし未来をより良く変えていく力になれる
と信じています。

『世界の問題についての私の提案』【高校生】佳作

福島県立郡山北工業高等学校 二年 上石 蓮夢

一人ひとりが多様性を認めあい、対話を大切にすることでの争いのない平和な世界をつくると私は考えます。今の世界は平和からは遠いものではあります、みんなが対話を通して互いの多様性を認め合えば平和になると思います。

福島県立白河実業高等学校 一年 高橋 弘暉

戦後八十年。戦争では多くの尊い命が失われた。記憶が歴史に変わりつつあるが、もっと戦争の事について積極的に調べたり、戦争を体験した人の貴重な声に耳を傾け、戦争の大変さを語り継いだりしていくことが大切だと思った。



一〇〇文字提案

「夢をかなえるために」



「夢をかなえる
ために」

受賞者

優秀賞

佳作

塙町立塙中学校

二年 鈴木 彩羅
三年 青砥 由依

福島大学附属小学校
六年 長澤 廉乃

福島大学附属小学校
六年 佐々木優衣

学校法人松韻学園福島高等学校
三年 小林 心優

相馬市立日立木小学校
五年 星 めい

郡山市立富田東小学校
四年 池上みなみ

福島県立白河実業高等学校
一年 高城 海青

白河市立東北中学校
二年 菊池 雄大

須賀川市立白江小学校
六年 渡辺 咲愛

玉川村立玉川第一小学校

三年 渋谷旺志郎

会津若松市立日新小学校

六年 高木 杏授

相馬市立中村第二小学校

六年 穴戸 優美

相馬市立日立木小学校

六年 門馬 凜

須賀川市立第一中学校

二年 永瀬 悠里

「夢をかなえるために」受賞者

入選

相馬市立八幡小学校

六年 今野 巴愛

学校法人福島成蹊学園
福島成蹊高等学校

一年 岡田 菜月

福島大学附属小学校

六年 大河内健太
六年 大波 芹蘭

五年 渡部 朝登

福島県立白河美業高等学校
一年 佐藤 楓峨

六年 宮戸 謙哉
六年 菅野 翔太

四年 船柳 心希
五年 管野 大芽

一年 鈴木 愛望
一年 本橋花衣来

郡山市立高倉小学校

六年 高橋 蒼

四年 荒 糜里
六年 熊上 杏

一年 國井 花柚
二年 田中 月菜

須賀川市立西袋第二小学校

六年 柳沼 寿乃

六年 木幡 零

一年 廣瀬 莉緒
三年 深谷 彩花

須賀川市立小塙江小学校

三年 佐久間秋成

一年 國井 花柚
二年 田中 月菜

三年 芳賀竜乃介

三年 廣瀬 莉緒
三年 深谷 彩花

四年 今野 陽愛

三年 鈴木 陽葵
三年 八木 幸明

五年 吉成 陽香

二年 大竹 藍葉

白河市立表郷小学校

六年 滝田 優奈



『夢をかなえるために』優秀賞

福島大学附属小学校 六年 長澤 慶乃

相馬市立日立木小学校 五年 星 めい

ひとりぼっち。病気の時は、そんな気

分。でも、お医者さんに診てもらうと、

そんな気分が吹き飛ぶ。お医者さんは、
心も元気にしてくれる。私も人助けら
れる人間になりたい。今は、困っている
友達に声をかけよう。

私は、将来世界の様々な食材を使って

オリジナルのパンを世界の人々に届ける

夢を持っています。そのため今パン教室
に通つて世界各地で食べられているパン
を作っています。伝統を大事にした斬新
な私だけのパンを作りたいです。

白河市立東北中学校 二年 菊池 雄大

僕の夢は「人を助けること」です。僕は、将来医者になつて、苦しんでいる人を助けたいです。今ある平等に与えられた時間で、しっかりと勉強をし、苦い経験や辛い経験も乗り越え、人に寄り添い助けることができるようにつとめてみます。



『夢をかなえるために』佳作

福島大学附属小学校 六年 佐々木優衣

郡山市立富田東小学校 四年 池上みなみ

夢は、女優と気象予報士の二刀流だ。きれいな容姿を保つ事や、美容や流行にびん感でいる事を心がけている。また、気象に関する簡単な知識から学び始めた。災害が起きる前に異常気象も予測できる女優になりたい。

「だれかの役にたちたい！」ナイチンゲールを読み終わった後にこう思いました。そのために身近な人の手当てをしたり、保健室につれていったりしてかんごしになる夢の第一歩を、ふみだして、患者さんを勇気づけたいです。

福島大学附属小学校 六年 鹿又 大智

須賀川市立白江小学校 六年 渡辺 咲愛

僕の将来の夢は、ロボットエンジニアだ。その夢のために、算数や理科、英語を一生懸命勉強している。夢が叶つたら、困つたり、苦しんでいる人を助けることができるロボットを作り、世界中の人に笑顔にしたい。

私は、三歳の頃からピアノを習っている。そして、私の夢は世界的なピアニストになることだ。毎日こつこつと練習に励み、聴く人を笑顔にさせるような演奏をしたい。そんな思いで、今日もピアノの前に座る。私の思い、世界中に届け！

玉川村立玉川第一小学校 三年 渋谷旺志郎

相馬市立日立木小学校 六年 門馬 凜

ぼくのゆめはしようぼうしになることです。あぶない仕事で自分の命をおとしてしまうこともあるので、ぼくは、今のうちから水泳やランニングで体をきたえています。しようぼうしになり、人をたすけたいと思います。

私は、看護師になつて患者さん達の不安を少しでも取りのぞき、医師の診療補助をしたいです。親戚の看護師であるお姉さんの話を聞いて大変とは思いましたが、看護師だからこそ出来る人助けをしたいと心から思いました。

会津若松市立日新小学校 六年 高木 杏授

須賀川市立第一中学校 二年 永瀬 悠里

わたしには、夢があります。建築士になることです。わたしは夢を実現させるため、人がリラックスできて過ごしやすい建物はどんな建物なのかを自分の体で体感し考えています。すてきな家をデザインしてみたいです。

私の夢は小学校の教員です。私の目指す教員は良いところをのばせる先生です。困っている時に声をかけることができる先生になりたいです。そのため、勉強を頑張り、友達の相談をよく聞くようにしたいです。

相馬市立中村第二小学校 六年 宮戸 優美

塙町立塙中学校 二年 鈴木 彩羅

私の将来の夢は医者です。
その夢を叶えるために、勉強はもちろん、いろいろな体験をして、人としての常識を覚えたいです。また、「人には優しく、自分には厳しく」を心がけて生活したいです。

私は信頼される教師になるために日頃から学級全体の仕事に自分から取り組んでいます。勉強はもちろんのこと、小さなことができなければ教師になつても生徒からは信頼されないと思つてるので、積極的に動いています。

塙町立塙中学校 三年 青砥 由依

私の夢は、ドッグトレーナーです。目の見えない人などの助けになる盲導犬を訓練して多くの人の支えになりたいと思いました。夢を叶えるために、飼い犬に教えてみたりしています。夢に向かって精一杯がんばります。

学校法人松韻学園福島高等学校 三年 小林 心優

私が社会福祉士を目指すと決意したのは、「ありがとう」という言葉が心に響いたからだ。誰かのために動いて、そしてかけてもらった言葉は、私も幸せにしてくれる。これからも、誰かの幸せな笑顔をみたい。

福島県立白河実業高等学校 一年 高城 海青

私の夢は競輪選手になることです。その夢を叶えるために日々のトレーニングを大切にして、体力と技術の向上を目指します。また、競輪学校への進学に向けて学業にも励み、強い意志と覚悟を持って努力を続けたいです。



作品応募校

平田村立蓬田小学校	白河市立東北中学校
白河市立白河第四小学校	南会津町立南会津中学校
白河市立表郷小学校	南会津町立荒海中学校
棚倉町立近津小学校	塙町立塙中学校
福島市立福島第一小学校	矢祭町立矢祭中学校
福島市立福島第三小学校	学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校
福島大学附属小学校	学校法人松韻学園福島高等学校
桑折町立半田醸芳小学校	郡山市立高倉小学校
会津若松市立日新小学校	郡山市立富田東小学校
会津若松市立城西小学校	猪苗代町立猪苗代第二小学校
猪苗代町立猪苗代第二小学校	郡山市立多田野小学校
北塙原村立さくら小学校	只見町立只見小学校
福島県立郡山北工業高等学校	須賀川市立第三小学校
福島県立郡山北工業高等学校	須賀川市立小塩江小学校
福島県立平支援学校 高等部	須賀川市立西袋第二小学校
福島県立白河実業高等学校	相馬市立中村第二小学校
福島県立白河実業高等学校	相馬市立八幡小学校
福島県立白河実業高等学校	相馬市立日立木小学校
福島県立白河実業高等学校	南相馬市立上真野小学校
福島県立白河実業高等学校	飯舘村立いいたて希望の里学園
須賀川市立第一中学校	玉川村立玉川第一小学校
須賀川市立第一中学校	古殿町立古殿小学校
須賀川市立第一中学校	鏡石町立第一小学校
須賀川市立第一中学校	古殿町立古殿小学校
須賀川市立第一中学校	玉川村立玉川第一小学校

年度別応募状況

年 度	応 募 校 数 (校)				応 募 作 品 数 (点)			
	小学校	中学校	高等学校	合 計	小学校	中学校	高等学校	合 計
平成18年度	29	10	1	40	951	385	25	1,361
平成19年度	32	6	4	42	1,749	211	115	2,075
平成20年度	29	2	2	33	1,683	268	45	1,996
平成21年度	24	2	4	30	1,401	159	64	1,624
平成22年度	42	7	2	51	2,859	757	24	3,640
平成23年度	35	7	1	43	3,325	912	4	4,241
平成24年度	47	11	18	76	3,666	735	338	4,739
平成25年度	60	14	20	94	5,602	1,048	889	7,539
平成26年度	48	6	12	66	5,175	1,018	1,027	7,220
平成27年度	45	12	13	70	3,992	1,373	76	5,441
平成28年度	44	11	9	64	4,847	1,433	405	6,685
平成29年度	43	12	9	64	3,542	1,048	477	5,067
平成30年度	35	11	7	53	3,043	1,047	397	4,487
令和元年度	39	8	7	54	2,784	457	198	3,439
令和2年度	26	7	6	39	2,210	744	76	3,030
令和3年度	30	6	9	45	2,120	403	355	2,878
令和4年度	35	9	4	48	2,123	471	323	2,917
令和5年度	30	7	5	42	1,850	736	226	2,812
令和6年度	29	9	5	43	2,211	655	67	2,933
令和7年度	30	6	5	41	1,276	343	242	1,861

令和7年度 テーマ別応募作品数

(点)

テ 一 マ	小 学 生	中 学 生	高 校 生	合 计
いのちの詩・愛の詩	303	89	19	403
わたしがだれかのためにできること	551	109	61	716
世界の見知らぬ友へ【小・中学生】	121	28		142
世界の問題についての私の提案【高校生】			88	88
夢をかなえるために	301	117	74	487
応募総数	1,276	343	242	1,861

令和7年度青少年赤十字「詩・100文字提案」作品募集 実施要項

1 目 的

子どもたちが、青少年赤十字の態度目標や実践目標に基づく募集テーマを通して、自分が学んだことや体験したことを振り返り、短い文章に表しながら、体験して得た価値に気づいたり、他のよさを感じ取ったりすることができるようとする。また、そのことを友達や家族に伝えて共感を得たり、新たに実践したいことを見つけることを通して、自信と喜びをもって生活することができるようとする。

2 テーマ

(1) 詩の部門

- 「いのちの詩・愛の詩」

実践目標「健康・安全」に対応

(2) 100文字提案の部門

- 「わたしがだれかのためにできること」

実践目標「奉仕」に対応

- 「世界の見知らぬ友へ」【小・中校生のみ】

実践目標「国際理解・親善」に対応

- 「世界の問題についての私の提案」【高校生のみ】

実践目標「国際理解・親善」に対応

- 「夢をかなえるために」

態度目標「気付き・考え・実行する」に対応

3 対象

加盟校：小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の児童・生徒

4 募集期間

令和7年4月1日(火)～9月5日(金)

5 主催

日本赤十字社福島県支部 青少年赤十字福島県指導者協議会

6 賞及び表彰

(1) 特別賞

- 日本赤十字社福島県支部長賞（各部門）

- 青少年赤十字福島県指導者協議会長賞

- 福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞

(2) 賞（各部門出品数の割合による）

- 優秀賞
- 佳作
- 入選

(3) 学校賞及び学校奨励賞

- 学校奨励賞 5年連続して応募した学校

- 学校賞 入賞が多い学校

(4) 表彰

- 特別賞と優秀賞には、賞状と楯を授与する。

- 賞及び学校賞、学校奨励賞には、賞状を授与する。

- 優秀な作品をまとめて作品集を作成する。

※入選については、氏名のみ掲載する。

7 審　査

多くの人の審査を経ることにより、子どもたちの多様で豊かな心情に焦点をあてることができるようとする。

(1) 1次審査

○福島県6地区から推薦された青少年赤十字賛助奉仕団員から、各テーマ5名による1次審査員を基本とした審査を行い、応募規格に沿った作品の中から優良な作品を選出する。

(2) 2次審査

○福島県6地区から推薦された青少年赤十字賛助奉仕団員から、各テーマ3名による2次審査員を基本とした審査を行い、入賞候補となるさらに優良な作品を選出する。

(3) 最終審査

○9名の本審査員が各賞の作品を選定する。

(4) 振り返りの会

○最終審査員と事務局で、応募全般について振り返りの会をもち、次年度の応募に生かしていく。

○振り返りの会は、審査委員の負担を考慮して、表彰式の午前中に開催する。

8 表　彰　令和7年12月25日(木) 13:30～15:30

※報道各社に開催を知らせ、取材をしていただく。

9 その他の

(1) 応募校を拡大するための工夫に努める。

…授業での活用法の周知、地区の賛助奉仕団員による学校訪問、4月当初と夏休み前で応募要項を配付など

(2) 賞が決定し、作品集の作成を始めるにあたって、本審査員に校正を依頼する。

…詩の適切な改行、字句語句の訂正など

(3) 作品の掲載権限は、支部が有するものであることを募集要項に明記する。また、表彰式で撮影した写真の使用については、許諾書をとるものとする。

令和7年度 青少年赤十字 「詩・100文字提案」作品募集のお知らせ



募集作品

◇ 詩

○「いのちの詩・愛の詩」(JRC 実践目標「健康・安全」)

「いのち」はかけがえのないもの、大切なものです。そのことを実感することができるよう、皆さんが「いのち」に感動したこと、「いのち」に向けた素直な願いや行いを詩に表してみましょう。心地よいリズムで心に響く「いのちの詩・愛の詩」をお待ちしています。

◇ わたしの100文字提案

次のテーマから一つ選んでいただき、100文字の提案として、短いけれど自分の考えをしっかりと表現した作品を募集いたします。

○「わたしがだれかのためにできること」(JRC 実践目標「奉仕」)

周りの人や社会のために、自分から進んで行動しようとする気持ちが大切です。それには、まず、何が必要とされているのかを注意深く探ってみましょう。あなたが気づいたことは何ですか。どんなことができそうですか。よりよい未来をつくるための一歩、やってみようと思ったこと、すでにやり始めていることなどを100文字にまとめてみましょう。

○【小・中学生】「世界の見知らぬ友へ」(JRC 実践目標「国際理解・親善」)

世界には、まだ会ったこともない人たちがたくさん暮らしています。本で調べたり、テレビをみたりして出会い、「一緒に遊んでみたい」「話を聞いてみたい」と思ったり、「力をかけてあげられないかな」「励ましてあげたい」と考えたりすることがあるでしょう。そんなメッセージを100文字にまとめ、身近に感じた人への気持ちを深めていきましょう。

○【高校生】「世界の問題についての私の提案」(JRC 実践目標「国際理解・親善」)

世界には、人々を苦しめたり、地球環境を崩壊させたりする様々な問題があります。それらの問題を解決するために、自分の考えを100文字にまとめて伝え、共感を広げましょう。

○「夢をかなえるために」(JRC 態度目標「気づき、考え、実行する」)

一人一人が自分の夢をもち、実現しようと励むことが、自分はもちろん、自分を取り巻く人たち、ひいては、社会全体の喜びと信頼につながっていきます。みなさんは、今、どんな夢をもち挑戦していますか。夢の実現に向けて考えていること、がんばっていることについて100文字にまとめてみましょう。

- ◇ 主 催 日本赤十字社福島県支部
◇ 後 援 福島県教育委員会
福島県中学校長会
福島県PTA連合会
福島民報社

- 青少年赤十字福島県指導者協議会
福島県小学校長会
福島県高等学校長協会
福島県青少年赤十字賛助奉仕団
福島民友新聞社



作品審査を終えて

このたびは、「詩・100文字提案作品募集」に多くの作品をご応募いただき、厚く御礼申し上げます。

応募数は、昨年よりだいぶ少ない一八六一点となりましたが、応募校は昨年とほぼ同程度の四十一校となりました。

この応募された中から、一次、二次の審査を経て、審査員九名により、十一月五日最終審査を行い、詩の部門・わたしの一〇〇文字提案部門の中から日本赤十字社福島県支部長賞を各領域から一点ずつ四点、全部門・領域から福島県青少年赤十字指導者協議会長賞一点、福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞一点、さらには、優秀賞、佳作、入選を出品数に応じて決定しております。

さておりました。さらに、命を大切にすることや戦争のない未来を築いていこうとする願いが強く感じられました。その中でも、日本赤十字社福島県支部長賞に選ばれた福島大学附属小学校六年の阿部紗也子さんの作品は、家族のつながりの不思議さを、お盆を機会に似ていることを通して感じている姿が目に浮かぶようで、とてもほほえましく思いました。また、福島県青少年赤十字指導者協議会長賞に選ばれた、郡山市立富田東小学校三年の伊藤晴一さんの作品は、食う・寝る・遊ぶ（運動する・学ぶ）を基本とする、食べて、寝て、運動し、逞しい体を作つて、自分の命とみんなの命を笑顔で守るという強い意志を感じられました。

わたしの一〇〇文字提案部門の「わたしがだれかのためにできること」では、周りの人や社会のために何が必要とされているのか考え、あなたが気づいたことは何なのか、そして、どんなことが実行できそうなのか考えたことや、すでにやり始めていることを一〇〇文字程度にまとめてみようと募集しました。小・中・高校生から七百点を超す作品をお寄せいただきました。友達への寄り添いや思いやり、地域の美化やゴミ拾い、ヘアドネーション、募金に関する取り組みなど実際に取り組んでいることや、あいさつ運動のことなどが多く目につきました。しかし、ゴミを拾えば、募金をすれば、お手伝いをすれば誰かのためになるというそんな単純な事ではありません。だれかのために、実際に取り組んでいること、体験していることを具体的に

短い言葉の中で、祖父母、親子、兄弟姉妹に対する思いが見事に表現されており、その情景が目に浮かぶようでした。また、家族の温もりが感じられ、「家族のきずな」をさりげなく表現

書くことが大切なのだと思います。

その中でも、日本赤十字社福島県支部長賞に選ばれた玉川村立玉川第一小学校三年の大和田尚央さんの作品は「兄は弟の鏡」であることを思い起させてくれました。よい手本を示してやらなくてはと、ハツと気づいたときが好機です。ぜひ言葉で思いやりの手本を示してあげてください。尚央さん、がんばってください。

「世界の見知らぬ友へ」「世界の問題についての私の提案」では、世界のまだ会つたことのない見知らぬ人へ「一緒に遊んでみたいな」「話を聞いてみたいな」「力を貸してあげたいな」「励ましてあげたいな」と考えたり思つたりしたことを一〇〇文字

程度にまとめてみようと募集しました。百五十点余りの作品が寄せられました。貧困や戦争、環境問題に関する提案が寄せられました。その中でも、日本赤十字社福島県支部長賞に選ばれた猪苗代町立猪苗代第二小学校五年吉田凱星さんの作品は、テレビに映ったガリガリにやせた男の子を見て、今はできないが、一生懸命勉強して、もう大丈夫と言えるようになる、と決心したというものでした。凱星さん期待しています。是非助けてあげてください。

日本赤十字社福島県支部の『詩・一〇〇文字提案作品集』の発行は今年で二十回を迎えるました。この作品集は、全国の青少年赤十字関係者にも読んでいただき、深い感動と福島県の子どもたちのやさしさ・思いやりの心に強い関心が寄せられています。今年度も『より良い未来にやさしさ』を届けるために、いつも相手の気持ちを考え、行動できる「やさしい心」をはたらかせて、詩や一〇〇文字の文章に表したメッセージを届けてくださいと、令和七年度の「詩・一〇〇文字提案」作品募集を各学校にお知らせしました。子どもたちが、自分や周りの人によさを知り、そして、文章に表したことときつかけにして、さらに自分の力を生かし、よりよい未来をつくるために行動してくださいとまとめています。「見る」と「看る」の違いの分かる佳那さん、さすがだと思います。また、福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞に選ばれた須賀川市立白江小学校六年の石井悠翔さんの作品には「将来、米や野菜を作る農家になる。そのためには今から祖父からやり方を教わっている。」と記されており、強い信念とそれを実現するための着実な実践がすごいと思います。是非がんばってください。

「夢をかなえるために」では、今どんな夢をもち、挑戦しているか、夢の実現のためにがんばっていることについて一〇〇文字程度にまとめてみましょと作品を募集しました。小・中・高校生から約五百点近い作品の応募がありました。その中でも、

日本赤十字社福島県支部長賞に選ばれた白河市立東北中学校二年の中藤佳那さんの作品は、「私は看護師になりたい。そのため今から人を見る事を意識した生活を心がけていきたい。」とまとめています。日本赤十字社福島県青年赤十字賛助奉仕団委員長賞に選ばれた須賀川市立白江小学校六年の石井悠翔さんの作品には「将来、米や野菜を作る農家になる。そのためには今から祖父からやり方を教わっている。」と記されており、強い信念とそれを実現するための着実な実践がすごいと思います。是非がんばってください。

日本赤十字社福島県支部の『詩・一〇〇文字提案作品集』の発行は今年で二十回を迎えるました。この作品集は、全国の青少年赤十字関係者にも読んでいただき、深い感動と福島県の子どもたちのやさしさ・思いやりの心に強い関心が寄せられています。今年度も『より良い未来にやさしさ』を届けるために、いつも相手の気持ちを考え、行動できる「やさしい心」をはたらかせて、詩や一〇〇文字の文章に表したメッセージを届けてくださいと、令和七年度の「詩・一〇〇文字提案」作品募集を各学校にお知らせしました。子どもたちが、自分や周りの人によさを知り、そして、文章に表したことときつかけにして、さらに自分の力を生かし、よりよい未来をつくるために行動してくださいとまとめています。「見る」と「看る」の違いの分かる佳那さん、さすがだと思います。また、福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞に選ばれた須賀川市立白江小学校六年の石井悠翔さんの作品には「将来、米や野菜を作る農家になる。そのためには今から祖父からやり方を教わっている。」と記されており、強い信念とそれを実現するための着実な実践がすごいと思います。是非がんばってください。

つぎに今まで繰り返し述べられてきましたが、これからは作品作りについて気をつけてほしいことを記してみます。

一 この「詩・100文字」提案は、「書く活動」を通して、青少年赤十字の目的や活動を自分のこととしてとらえながら、毎日生活科や総合的な学習の時間などで取り組んでいることから選んで、なにを書きたいのか、応募のテーマを決めてください。態度目標の「気づき」「考え」「実行する」の実践そのものだとわたしは思います。

二 100文字という限られた文字数の中で書きたい核心に迫る表現を工夫しましょう。感動したことをテーマにしたいのであれば「私が感動したことは？」、わたしがだれかのためにできることであれば「わたしがだれかのためにできることは？」などと書き出す必要はありません。「いのち」「愛」「感動」などのことばもあえて使わずに書いてみてください。短文で切って詩の形にするのも一つの方法だと思います。七五調のリズムや七七調のリズムを利用するのも手です。詩はマス目のない用紙を利用していますが、字数制限がないわけではありません。「説明を付けなければつけるほど、伝わるか」というとそうでもない」と歌人の俵万智さんも言っています。

三 読み手を引きつけるのは、作品を書くあなたが、そこに登場することです。体験や経験から生まれた自分の思いを伝えることです。完成した作品は読み直したり、周りの人人に読んでもらったりして、思いが伝わったかどうか確かめてみてく

ださい。

四 あえて言います。わたしがだれかのためにできること（奉仕）は、周りの人や社会のためにできることです。家でのお手伝いや決まった仕事をすることは奉仕ではありません。書くのであれば、いのちの詩・愛の詩（健康・安全）の領域で書いた方がいいと思います。

おりに、審査員一同、作品を寄せていただいた学校、指導に関わってくださった先生方、そしてたくさんの中学生を寄せてくれた児童生徒の皆さんに対して感謝し、お礼申し上げます。今後とも青少年赤十字活動を身近に感じ、実践することを通して、さらによい作品が生まれることを祈っています。

令和七年十一月 最終審査会を終えて

審査委員長
(福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長)

松 田 貞 夫

審査にご協力いただいた皆様（敬称略）

☆ 審査員長（福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長）

○松田 貞夫

☆ 審査員（青少年赤十字福島県指導者協議会副会長、福島県青少年赤十字賛助奉仕団員）

○土屋 悅男
○古山 隆一
○木村 真一
○高畠健一郎
○宮前 貢
○高宮 裕
○小林 伸行
○高橋 恵子
○遠藤寿美子
○圓谷 円
○長谷川文之
○吉田 和夫
○渡邊 義人
○吉田 佳正
○佐藤 吉郎
○菅野 善昌
○鈴木美津子
○飯沼 信一
○鵜沼 秀雅
○小野田敏之
○永山 陽一
○金谷 哲
○午來 勝顕
○原 豊子
○関根 勝志
○渡邊 隆
○久保 克昌
○出口 智美
○相澤真理子
○大内 雅之
○菅野勇一郎
○中村 麻佑

※○印：最終審査員

☆ 事務局（日本赤十字社福島県支部）

事務局長
組織振興課
課長

社員係長兼ボランティア係長

青少年赤十字指導講師
青少年赤十字指導講師

主事

久保 克昌
出口 智美
相澤真理子
大内 雅之
菅野勇一郎
中村 麻佑

